

平成 28 年度 医療救護所訓練の課題と対応案

問題点・課題	対応案
1 レイアウト	
(導線) ・導線が重ならないように、歩ける傷病者は 2 階に誘導するなど工夫が必要である。	・学校や避難拠点と相談の上、可能なレイアウトを検討する。
(軽症者処置場所) ・軽症、重症ともに傷病者のプライバシー保護がなされていなかった。服を脱がせる場合もあるので、最低限カーテン等で仕切る必要がある。 ・重症処置場所と軽症処置場所が遠く連絡が取りづらかった。	・現状、医療救護所の備蓄物資には仕切り等はない。学校の備品を活用した対応を検討する。 ・学校のレイアウトを踏まえ、適切な処置場所を検討する。
(重中等症者処置場所) ・二次トリアージの部屋はストレッチャー等がそのまま入ってくるため大きな部屋が望ましい。また、待合と診察する場所を分けたほうがよい。	・学校のレイアウトを踏まえ、より広い部屋の確保など対応を検討する。
(その他) ・会場表示をビブスと同じ色で分けるとわかりやすい。	・次回以降の訓練で、色分け表示を行う。
2 医療救護所運営	
・一次トリアージにも医療職（医師・看護師等）を配置して判断すべき、判断に困るケースがある。 ・一次トリアージを地元の人や区職員が担うのはいかがか。感染症対策などがなされていない点が気になった。 ・トリアージタグの書き方を間違えている。参加者には一度タグの書き方を指導すべき。 ・重症者処置場所にも柔道整復の処置が必要なので、柔道整復師の配置をしておくべき。 ・重・中等症者のケースをもっと少なくすべき。 ・現在の災害用カルテは項目が多いため、記載すべき項目には優先順位を付けるなどの加工修正が必要である。 ・医薬品の補充要請は、品目の誤りがないように F A X でやるべきである。	・谷原中訓練では、区保健師を配置し対応を行った。 ・谷原中訓練では医療用手袋、マスクによる衛生対応を行った。医療職の参集人数等を考慮し、可能な対応を検討する。 ・訓練前の事前指導を検討する。 ・参加人数等を考慮しながら、次回訓練から柔道整復師の配置を検討する。 ・軽症者とのバランスを考慮し、適正な数としていく。 ・協議の上、使いやすいカルテの作成を検討する。 ・次回訓練において、F A X による医薬品補充要請を検討する。

3 用品関連	
<ul style="list-style-type: none"> ・車いすを各部屋に配置すべき。 ・医師の使用する血圧計や聴診器といった医療器具は準備すべき。 ・柔道整復師処置場所には、包帯用のハサミが必要である。 ・指用の固定具、顔や目に使用するガーゼ等があるとなおよい。 ・保険薬事典やOTCの事典のようなものがあるとよい。 ・レスキューカーに乗せたまま処置（重症者）をしたため、一次トリアージ場所からレスキューカーがなくなってしまうことがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における設置台数を考慮し、増台を検討する。 ・聴診器は原則持参とするが、学校への設置も検討する。 ・谷原中訓練で対応。実災害時においては、学校や避難拠点のものを使用する。 ・医療救護所資器材の更新等の際に検討する。 ・医療救護所への配備を検討する。 ・処置場所ではレスキューカーからベッドに移動させるなど、対応を検討する。
4 その他	
<p>(訓練時期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう少し暖かい時期に訓練してはいかがか。冬場だと傷病者が厚着なので、しっかりとした処置ができない場合がある。 <p>(見学者制限)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学者の制限が必要ではないか。狭い室内に人が多く、動きづらかった。 <p>(情報連絡)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班長、伝令、無線担当間の情報伝達において混乱した。 <p>(継続的訓練実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続した取組が必要である。 <p>(他訓練)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難拠点を同時に開設した訓練が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練準備期間等を踏まえ、できるだけ早い時期の訓練実施について検討する。 ・処置が終わった傷病者が見学に回ることもあり対応が困難であった。次回訓練では訓練エリアの見学は注意するよう喚起する。 ・トランシーバーを導入したが、使用法の周知が甘くいまひとつであった。事前訓練等を検討する。 ・今後も継続的に訓練を実施していく。 ・今後、必要人員等を踏まえ、実現可能な範囲で、避難拠点と医療救護所の同時開設訓練を検討する。